

## H.C.R.グローバルセミナー 高齢者ケアに活かす車いすシーティング

- 講義 アレックス・カマドゥ 氏 (ISWP 事務局長)  
クリティカ・カンダベル 氏 (ISWP プログラムマネージャー)
- 進行・コメンテーター 加島 守 氏 (日本車椅子シーティング財団副代表理事/保健福祉広報協会評議員)



ISWPの映像教材を使った講義 (採寸の様子)

要とするすべての人が個々のニーズに応じた車いすやサービスを楽しむために欠かせないプロセスとして、「選定」「調整」「トレーニング」の3つを挙げ解説しました。

特にトレーニングについては、使用者に推奨したいのが安全性や操作性を高めるためのトレーニングであるとし、「効率のよい漕ぎ方や、スムーズな方向転換、坂道の安全な移動など、必要性に応じて練習しておく、行動範囲の拡大や自立性の向上が期待できる」と解説しました。一方、介助者・技術者側には状況把握や保守管理のためのトレーニングが大切として、「使用者が認知症を抱えている場合は、より注意深いサポートが必要になる。移り変わっていく使用者の状態に合わせて定期的な保守管理を行い、車いすの状態を常に最適保てるようにトレーニングすることが重要」と強調しました。

アレックス氏はISWPが提供する測定やトレーニングの映像を交えながら、技術を実践する機会を設けて修練を積むことの大切さや、スキルを備えた車いす使用者に指導者としてトレーニングに参加してもらうことの重要性などを強調しました。

### 高齢者へのシーティング事例を紹介

続いて、特別養護老人ホームに入所する左片麻痺の利用者の座位姿勢の改善例がビデオ上映されました。ビデオを制作した加島氏は、「評価や採寸に基づきシート調整やクッションの補充を実施した結果、体のずり下がりも少なくなり、座位姿勢が改善されたことで車いすの操作性が向上した。正しい姿勢を保てるようになったので、食事が取りやすくなり、趣味(太鼓)も一層楽しめ、気持ちも前向きに変わった」と適切なシーティングの成果を解説しました。

### 尊敬と尊厳を持ってサポートを

続いてクリティカ氏からは、4つ目のプロセスである「継続的支援」について評価と改善の2点がポイントだと述べました。

また、来日後に介護施設や車いす工房の視察体験を振り返り、「介助者のみなさんの高い危機管理意識や素晴らしい気遣いに触れることができました。人のために働くことに喜びを感じ、尊敬と尊厳を大切にしている日本の方々であれば、素晴らしい関係性を築いていけるはずですよ」と述べ、参加した介護職員やケアマネジャー、作業療法士、理学療法士などを激励しました。

さらなる支援のために、ISWPが提供しているガイドラインやカリキュラムの活用も呼びかけるなど、介護のプロフェッショナルを目指す専門職にとって必見の内容となりました。

#### お知らせ

H.C.R.2025のセミナーでは、引き続き高齢者へのシーティングを取りあげます。海外から専門家を招いて、日常生活の様々な場面でのシーティングやポジショニングについて、専門職の実践に役立つプログラムを予定しています。

### 日本における車いす支給の現状

介護保険制度の改正により、車いすにおける「採寸料」が明記されるなど、その重要性の認知も広がっている「シーティング」。

本セミナーでは、WHO (世界保健機関) の協力・連携組織であるISWP (国際車椅子専門家協会) から、事務局長のアレックス・カマドゥ氏、プログラムマネージャーのクリティカ・カンダベル氏の2名を講師として招き、シーティングに対する考え方や、同組織が実施する車いすのトレーニングプログラムなどについて講演していただきました。

冒頭、日本車椅子シーティング財団の加島守氏は、日本における車いす支給の現状について、「採寸や機能評価などを伴うオーダーメイドの車いす支給はまだまだ障害者が中心であり、同じく車いすを必要とする高齢者は既製品で済まされることが少なくない」と解説。「車いすの快適さは高齢者にとっても生活の質に大きく関わる重要な問題。使用者・介護者双方の負担軽減のためにも、改善がなされるべき」と提起しました。

### 世界の車いす事情とISWPの活動

加島氏に続いてアレックス氏が登壇しました。同氏はまず世界における車いす事情に触れ、現在、全世界で車いすを必要としている人は8000万人に上ると紹介。世界的に高齢化が進んでおり、車いす需要の拡大が見込まれる一方、支援やサポートが十分とは言えない、と解説しました。

こうした状況を改善するため、ISWPは、車いす使用者とその家族を支援するためのグローバルコーディネーターとして活動しており、「車いすを必要とする彼らが適切な車いすと関連サービスを利用できる社会を目指すことが私たちのビジョン」と語りました。具体的な活動として、政府に対する費用負担の働きかけ、車いす操作のトレーニングや専門職への研修、車いすの品質向上に向けた専門家との協力等を挙げました。

### 車いす供給に欠かせないプロセス

アレックス氏は、WHOが提示する車いす供給ガイドラインに基づき、車いすを必